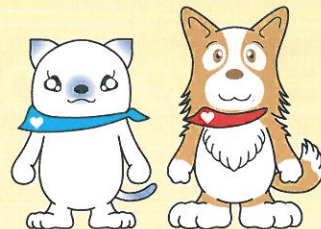


猫ひっかき病



●猫ひっかき病とは

猫ひっかき病は、猫に引っかけたり咬まれたりしたとき、傷口から侵入したバルトネラ属菌が原因となって起こる動物由来感染症です。

近年犬が感染源と考えられる事例も報告されており、身近なペットから感染する病気として注意が必要です。

●患者(人)の発生状況

患者の発生に関する統計はありませんが、成人より子供の発生が多いとされています。

また、ノミの繁殖期で感染した猫が増加する夏季と、室内で猫との接触機会が増える寒い時期に多発するといわれています。

●臨床症状

人

受傷後3～10日で、虫刺されに似た病変ができ、その後丘疹^{きゅうしん}や水疱^{すいほう}となります。1～2週間たつと、リンパ節^{リンパ節}(頸^{くび}、腋^{わき}の下、腿^{もも}のつけね)が腫れ、発熱^{はつねつ}、悪寒^{あくかん}、倦怠^{けんたい}、食欲不振^{しょくよくふぜん}、頭痛等の症状が現れます。大部分は2～3週間で自然治癒するとされていますが、重篤^{じゅうとく}な経過となる場合もあります。



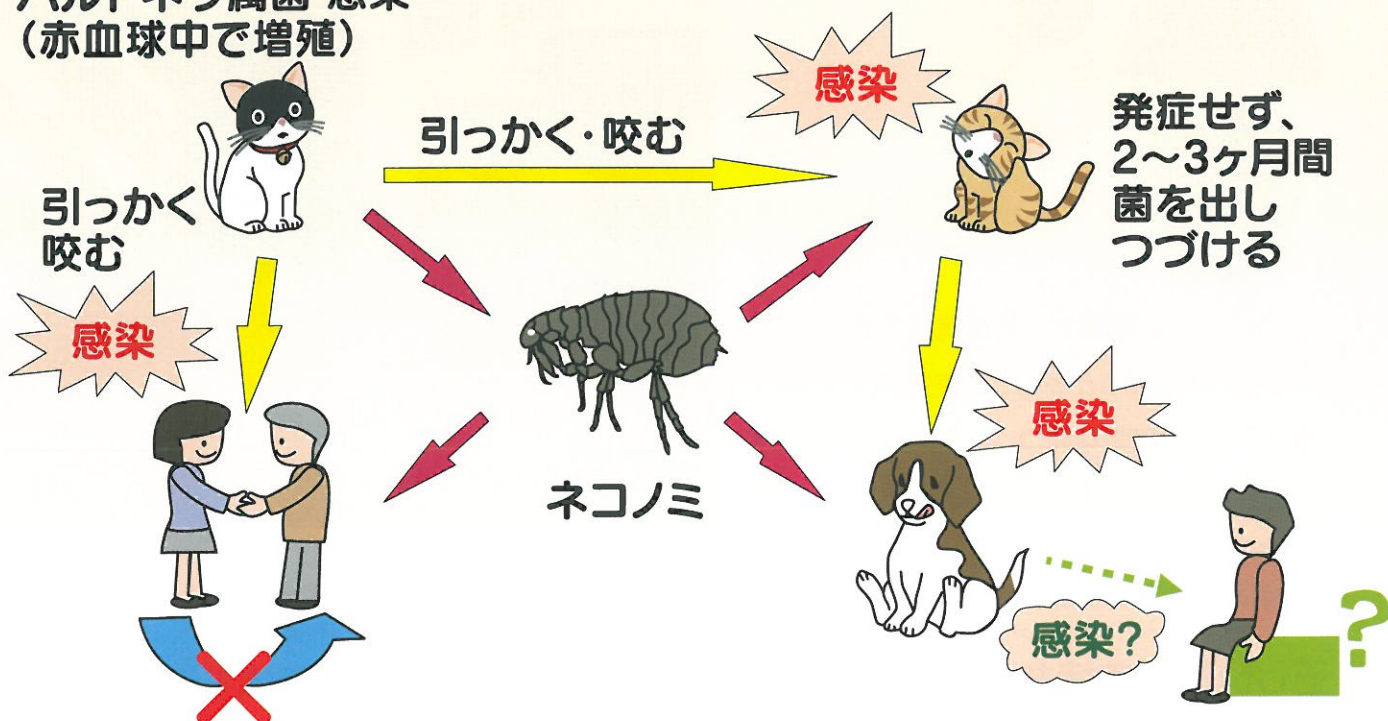
猫

ほとんど臨床症状を示さないまま、長期間(数か月から数年)の菌血症(血液中に細菌が浸入した状態)となり、菌を出し続けます。



●感染経路

バルトネラ属菌 感染
(赤血球中で増殖)



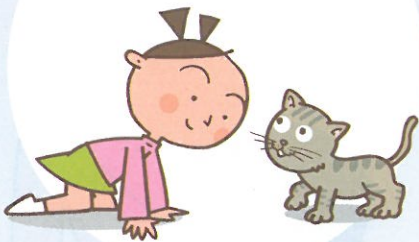
人から人へは感染しない

日本の猫のバルトネラ属菌の保菌状況

- 主に飼い猫を対象とした全国調査では、平均7.2%の猫が保菌していました。
- 北の地域に比べ、温暖な南の地域や都市部では感染率が高いという傾向があります。
- 戸外に出る機会の多い猫の方が感染率が高い傾向があります。
- 愛媛県が実施した調査では、
 - ・主にノラ猫：35.6%（230件中83件）が陽性【平成23～24年度調査】
 - ・主に飼い猫：6.5%（154件中10件）が陽性【平成25年度調査】

予防方法

- 猫、特に若齢猫に引つがられないようにする。



- 猫とふれあった後は、手指をよく洗浄する。



- 猫の爪を定期的に切り、ケガを予防する。



- ネコノミを定期的に駆除する。



- ★ノミやダニの駆除は、動物病院で処方してもらった薬を使うと簡単で確実です。
- ★ノミなどの寄生を見つけたら自分で判断せず、必ず動物病院に相談しましょう。

<室内飼いのメリット>

- ★鳴き声や糞の問題による近所とのトラブル防止ができます。
- ★交通事故や伝染病の心配が少なくなります。

- 猫はなるべく室内で飼いましょう。



正しい知識を持ち、適切な予防対策を行って、動物との絆を大切にしましょう。